



エイプリル社のSFMP 2.0の実施の進展状況に関する
SACステークホルダー・フォーラム・ミーティング
議事録

議題	リアウ州の現地NGOとのSACステークホルダー・フォーラム	
場所	ペカンバル プレミアホテル	
日付	2016年6月21日	
時間	15時～18時（インドネシア西部標準時）	
参加者	参加NGO	
	1. デスリアンディ氏（PASA） 2. ファトラ・ブディヤント氏（ルマー・ポホン） 3. ドディ・ファズルル氏（ルマー・ポホン） 4. デデ・クナイフィ氏（ルマー・ポホン） 5. イスナディ氏（JMGR） 6. ロメス氏（JMGR） 7. ルディ・ヒダヤット氏（ELANG） 8. M・ユディ氏（WWF） 9. リニ・ラマダンティ氏（ISEC） 10. ウォロ・スパルティナ氏（ジカラハリ） 11. フィトリ氏（WRI）	12. アフダール・M氏（EOF） 13. ハリー・オクタヴィアン氏（スケールアップ） 14. イステイクォマー・マルファア氏（スケールアップ） 15. イリナ・サリ氏（TAPAK） 16. アフリ氏（TAPAK） 17. プリヨ・アングロ氏（FKKM） 18. ウィディヤ・アストウティ氏（フタン・リアウ） 19. エイデン・ユースティ氏（LPAD） 20. アリ・アフリアンディ氏（グリーンピース） 21. テディ・ハルディアンシャ氏（KABUT） 22. ムスリム氏（YMI） 23. ディナ・フェブリ・アストウティ氏（RUPARI）
	不参加NGO	
	1. WALHI 2. AMAN	3. HAKIKI
	SAC委員・KPMGメンバー	
	1. ジョー・ローソン氏（議長） 2. ニール・パイロン氏 3. ジェフ・セイヤー氏 4. アル・アザール氏	5. ルスマディヤ・M氏（グリーンピース） 6. アンディ・タイト氏（グリーンピース） 7. ココク・Y氏（WWFインドネシア） 8. アディトヤ・バユナンダ氏（WWFインドネシア） 9. クリス・リドレー・トーマス氏（KMPG）
	エイプリル社	
	1. ルディ・ファジャール 2. ルディ・ティアンダ 3. ワン・ジャク 4. マリンガン・VS	5. ジェミー・チャヤディ 6. レザ・アミルル・J 7. イーサン 8. カエルール・バサー

		9. ジャチンダ・アントニア
協議のテーマ		
1. ジョー・ローソン氏（ステークホルダー諮問委員会（SAC）委員長）		
<ul style="list-style-type: none"> - SACによる開会の挨拶 - このSAC会議では、ステークホルダー・フォーラムを開催する。エイプリル社に関連するあらゆる問題を議論し、NGOの皆様にはSACおよびエイプリル社に対してアドバイスをいただきたい。 		
2. ジェフ・セイヤー氏		
<ul style="list-style-type: none"> - フォーラムでは、問題を議論するだけでなく、エイプリル社のSFMP 2.0に関連して、同社がいつどのように改善すれば良いかアドバイスをいただきたい。 		
3. SACメンバーおよびステークホルダー・フォーラムの全参加者の紹介		
議事録		
1. プリヨ・アングロ氏（FKKM）	FKKMは、まとめ役として、苦情処理の仕組み（GM）、プラウ・パダンの生活用農園開設、SFMP 2.0の監査のための主要な指標の策定を支援してきた。結果は2015年10月から12月にエイプリル社に提出されている。同社には、我々の報告を受けてからの行動を教えてください。SFMP 2.0の監査の指標に到達するまでの行程はどのようになるのか？	
KPMG	<ul style="list-style-type: none"> - 2016年1月、KPMGはエイプリル社と「中間報告書」を共有しており、SFMP 2.0の監査の進捗状況について最新情報を提供している。 - KPMGは、SFMP 2.0の監査の指標に関する準備と決定時期について、コミュニティ、NGO、その他さまざまなステークホルダーと話し合いをした。 - SFMP 1.0と比べSFMP 2.0では、コミュニティの福祉や生活水準に関する指標が改善されている。 - SFMP 2.0は1年継続したところであり、KPMGとエイプリル社は今年、同社のSFMP 2.0の基準値を改定する。次のステップは、目標を設定しすでに策定された指標に向けて改善を実施することである。 	
エイプリル社	<ul style="list-style-type: none"> - 当社は、苦情処理の仕組みのSOP完成まで時間がかかっていることを理解している。FKKMリアウからのアドバイスの他にも、当社はNGOの皆様からのアドバイスも取り入れている。 - 苦情処理の仕組みのSOPは、当社の持続可能性ポータルサイトに掲載される。また、当社は、苦情処理を取り扱う専門スタッフを新たに採用した。 - 当社は、苦情処理の仕組みのSOPの最終的な草稿をリアウ州の現地NGOと共有する。 	
2. ウィディヤ・アストウティ氏（フタン・リアウ）	<ul style="list-style-type: none"> - 我々コミュニティと、エイプリル社の権利が重なっているような土地は、コンセッションの空間マップで示すなど、情報を共有することでより透明性を持たせるようエイプリル社に求める。「1つの地図」を作 	

	<p>るとい概念である。</p>
エイプリル社	<ul style="list-style-type: none"> - 当社とサプライヤーのコンセッションの地図は、すでに当社の持続可能性ポータルサイトにアップロードしてある。しかし、すべてのサプライヤーの地図がアップロードされているとは言えず、当社は、すべての地図をアップロードするために現在も作業を続けている最中である。ウェブサイトのアドレス: http://sustainability.aprilasia.com/
3.デスリアンディ氏 (PASA)	<ul style="list-style-type: none"> - 以下は、プララワン県テルク・メランティ村の生活用農園に関する苦情として寄せられた、FMPSK (Forum Masyarakat Penyelamat Semenanjung Kampar) からのメール内容である。現地の実地の状況はどうなっているのか? 生活用農園は川岸の地帯に設置されたというのは本当か? - この問題は、エイプリル社の苦情処理の仕組みで処理されているのか?
エイプリル社	<ul style="list-style-type: none"> - 当社は、テルク・メランティの現地コミュニティより任命されたコミュニティの正式な代表であるTIM 40との会合にFMPSKを招いている。話し合いは継続中である。 - 川岸地帯の天然ゴム農園は、テルク・メランティ村の生活用農園ではない。誤解があったようだが、この河岸地帯の農園は、境界線についてペララワン環境局と合意に至ったものである。 - アカシアの植林や、コミュニティへの補償など、代替の方法がすでに示されている。
4.エイデン・ユースティ氏 (LPAD)	<ul style="list-style-type: none"> - エイプリル社に、SFMP 2.0の実施に関する「全体構想」の策定を求める。 - リアウ州のNGOティム・ボクジャからエイプリル社に提言された策定プロセスに、リアウ州の現地NGOはどのように関わったのか?
SAC	<ul style="list-style-type: none"> - さまざまなアドバイスのおかげでSFMP 2.0では、SFMP 1.0から多くの改善が見られており、SFMP 2.0での全体的視野はより広がっている。 - 現在、エイプリル社、ザ・ネイチャー・コンサーバンシー (TNC)、SACは、SFMP 2.0の「全体構想」の最終決定について協議を進めている。この「全体構造」策定にはTNCの知識が不可欠である。TNCからは作業要綱 (TOR) を要求されている。
5.イスナディ氏 (JMGR)	<ul style="list-style-type: none"> - JMGRの現地レポート: 2016年6月17日撮影の写真を見ると、RAPP社の掘削機により、バガン・メリブー村で新たな用水路が拡張されているようだ。2016年6月19日撮影の写真では、用水路が開かれており、水が流れている。2016年6月21日の朝、この用水路に関して、メランティ島地区の林業植林地の代表者が訪問してきた。JMGRは、法令通知SK 180に基づき、バガン・メリブー村は、RAPP社のコンセッションエリアから除外されるべきであると求めた。 - JMGRの現地レポート: 撮影された写真では、川の中流に設置されたテルク・メランティ村の生活用農園で、荒廃や病害が認められる。このような状況から、コミュニティは、2017年に生活用農園を移譲するというエイプリル社の計画を疑問視している。JMGRは、テルク・ビンジャイの生活用農園開設に反対する村民200名が署名した拒否通知のコピーを入手した。RAPP社に、テルク・ビンジャイの生活用農園開設に関

	<p>する覚書を見直し、慎重に検討した上で現地コミュニティに返答するよう求めた。</p>
エイプリル社	<ul style="list-style-type: none"> - 当社は、寄せられた懸念についてJMGRのイスナディ氏と話し合いの場を持ちたく連絡をとったが、返答がなかった。 - 当社の誓約は、コミュニティからの依頼（例：天然ゴムの植林）を受け、テルク・メランティ村での生活用農園を開設することである。当社は引き続きこの取組みを継続するが、生活用農園を常に完璧な状態に保つのはまず不可能であるが、当社は天然ゴム・アカシアの樹木を脅かす病害や、2ヶ月前にテルク・ビンジャイ村を襲った竜巻のような自然の脅威に対処し続ける。 - 当社は、現地コミュニティの村民同士の紛争には一切関与しない。 - 当社は、その重機がRAPP社の所有物かどうか、業務チームに確認させる。 - 3年前、テルク・メランティ村の一部の村民から拒否通知が送られてきた。当社としては、現状を知りたい。当社が常に連絡を取っているのは、テルク・ビンジャイ村の"Tim 9"であり、この"Tim 9"は生活用農園についてテルク・ビンジャイの村民から任命されたコミュニティの公式な代表である。 - 当社はSFMP 2.0の誓約に基づき、2015年5月15日以降の自然林伐採を停止した。 - 当社は泥炭地管理について第三者泥炭専門家ワーキンググループ（IPEWG）に相談し、アドバイスを受けた。2016年1月の会議では、IPEWGは適切な水管理を実施するという条件で、当社に生活用農園内で作業を進めてもよいと提言した。この計画はすでに2016年の年次作業計画（RKT）の中でも文書化されている。
SAC	<ul style="list-style-type: none"> - 2016年初頭、SACはプラウ・パダンの現地コミュニティの人々と直接話し合いの場を持った。プラウ・パダンの生活用農園、特に天然ゴム農園はSACがIPEWGとともにフォローアップを行った重要な部分であり、IPEWGが関心を寄せている。
6.ムスリム氏（YMI）	<ul style="list-style-type: none"> - GCN社に、RER（リアウ環境回復）の対象エリアから、セガマイ村の土地である400ヘクタールを除外するよう求める。この土地は「村の森林」として割り当てられることが計画されている。
7.ウォロ・スパルティナ氏（ジカラハリ）	<ul style="list-style-type: none"> - 林業省規則 no 12/2015では、生活用農園には20%の土地が割り当てられるべきと述べている。エイプリル社にこの規則の実施を強制するためのSACの役割と機能はどのようなものか？ - リンバ・ロカン・レスタリ社との紛争をエイプリル社はどのように解決するのか？
SAC	<ul style="list-style-type: none"> - SACはエイプリル社に対して特定の物事を強制する立場にない。SACの役割は、同社に助言を与え、真摯にSFMP 2.0の誓約を実施し、すべての政府規則を遵守するよう促すことである。
8.ハリー・オクタヴィアン氏（スケールアップ）	<ul style="list-style-type: none"> - エイプリル社の持続可能性ポータルサイトで、同社が対応しているコミュニティ関連の紛争の一覧と状況を掲載して、情報を共有するよう提案する。 - 天然ゴム農園は、コミュニティの経済を支えるものとしては不適切で



STAKEHOLDER
ADVISORY
COMMITTEE

	はないかという観点から、スケールアップはエイプリル社に、長期的戦略を作成し、コミュニティ福祉のための提案や、天然ゴム農園以外の生活用農園計画が、コミュニティの真の利益となるようこれらの見直しを求める。
9.ロメス氏 (JMG R))	- エイプリル社が引き続きSFMP 2.0の誓約で前向きな進展を見せ、コミュニティに対する生活用農園として20%を割り当てるという義務を果たしてくれることを願う。
閉会の挨拶	
SAC	- SACは、本日のフォーラムに出席し、有意義なアドバイスを提供してくれた参加者全員に謝意を示す。 - SACはエイプリル社にNGOからのすべてのアドバイスに対応するよう求める。 - -SACは「Selamat Berbuka Puasa (良い断食明け)」を祈る。